

2021 年度学内研究助成 成果報告書

① 報告者所属・氏名

生活科学部 生活文化学科 塚原拓馬

② 事業名

組織開発とメンタルヘルスマネジメントの効果測定

③ 事業の目的

本研究は、現代の社会課題であるメンタルヘルスに関する実態の解明と、有効な実践的知見を提供することを目的とした。現在、ストレス対策としてストレスチェックが義務化されているが、規定されたストレスチェックは定型化されているため、特に組織分析において実態を多面的に捉えることができていないというデメリットが生じている。

これまで研究者は既定のストレスチェックテストよりも精度の高い測定尺度を開発し、各事業部（各部署等）に対して統計的分析による多面的情報を提供することを試みてきた。そこで、本研究では協力会社において実施してきたこれまでの組織分析の効果を再検証することを目的とした。また、本研究において開発した測定方法の他組織・団体に対する適用可能性について検討することを目的とした。

④ 事業実績・研究成果（具体的に）

本研究の成果としては主に二点ある。まず、ストレスチェックにおける組織分析では捉えきれない組織の多様な側面（経営的視点、職場環境、支援体制など）を組み入れて分析し、客観的指標によって組織特性を明確化したことである。また、測定ツールをカスタマイズしていくことで、組織特性に適合したデータを各現場（部署）に提供することができ、結果の実践的価値を高めたことにある。これにより、本研究で開発した測定方法が他の組織・団体等に対しても有効である可能性について検討することができた。

⑤ 研究成果の発表・活用（学会発表・論文掲載・地域連携・産学連携など）

（学会・講演）

- ・日本社会心理学会第 62 回ワークショップ

「人と組織の影響過程—職場適応に関する臨床社会心理学」

- ・日本発達心理学会第 32 回シンポジウム

「生涯発達における発達の最適化と well-being—成人期・老年期の適応的な発達と支援」

（論文・書籍）

- ・塚原拓馬（2022）. ライフサイクルモデルの再考とキャリア支援 実践女子大学生活科学部紀要 第 59 号

⑥ 今後の展開・継続性について

今後の発展、継続性としては、本研究における協力会社だけにとどまらず、他の組織・団体においても活用し、組織分析の客観的データの提供や、各現場（部署等）への実践的価値を持つ分析結果を提供していくことであると考えている。